

学力向上の前提とは何か

- 読書により思慮深さを身につけよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(2)春休みに入った方もたくさんいらっしゃると思います。春休みは普段より自由になる時間があります。この CRT 栃木放送の「開倫塾の時間」は、学力はどのようにつけたらよいかという番組ですので、学力を身につけるための1つの方法である時間のある「読書」についてお話をさせていただきます。春休みは読書をするにもってこいですからね。

2. 読書は学力向上に役立つ

(1)学力の高い方とそうでない方との差はどこから生まれるのでしょうか。1つは、自覚を持って勉強している方は学力が高いといえます。2つめは、勉強のを身につけている人は学力が高いといえます。どのようにしたら上手い勉強ができるのかということに関心を持って、絶えず勉強のしかたを工夫している方、工夫をしながら自分なりの勉強のしかたを身に付けている方は非常に学力が高いようです。3つめは、今日のお話の中心でもありますが、読書をたくさんして思慮深さを身につけている人は学力が高いということです。

(2)OECD(経済協力開発機構)という国際機関が行った研究によりますと、お金持ちの方は一般に学力が高いことが多いそうです。そのわけは、お金持ちの方はお父さん、お母さんなど保護者の方から本をたくさん買ってもらえ、その本をたくさん読むからだということです。一方で、お金持ちではなくても本をたくさん読む方は学力が高いということです。お金持ちの国の人々は本をたくさん読むことができるから学力が高い。お金持ちの国でなくても本をたくさん読む国の人たちは学力が高いといわれています。お金持ちの保護者がいても、また、お金持ちの国に生まれても本を読まなければ高い学力は余り望めないということです。

(3)私もその通りだと思います。お金持ちであるかそうでないかにかかわらず、とにかく本を読む機会を自分でたくさん作って本を読み込んでいる方は学力が高いと思われます。ですから、この春休みを活用して、たくさん本をじっくり読んでいただきたいと思うのです。

(4)では一体、本はどこで読んだらよいのでしょうか。図書室や図書館がありますね。どの学校にも図書室があります。それから市町村や都道府県には公立の図書館が必ずあります。まずは、そこで本を読まれるとよいと思います。日本は、他の国に比べて学校の図書室や図書館が整備されているか。私は、整備されていないとは思いません。

(5)しかし、フィンランドなど熱心な国に比べると十分でないと思います。例えば、フィンランドは PISA 調査などで世界で一番学力の高い国であるといわれています。フィンランドには私も何度か行かせていただきましたが、街々に、街角街角に、個人でやっている図書館や公立の図書館がたくさんあります。そして、子どもたちがそこで本を借りて読んでいました。ですから、日本でも志のある人は、自分で図書館を作られたり、公立の図書館を上手に活用したりすることも大事であると思います。

(6)これは皆様にお願ひ、一つの提案ですが、ご自分でまたは、御家族、御親族、お仲間本をたくさん所有し、身近に空いている部屋をお持ちの方は、自分の家に図書館をお作りになり、私立の街角(まちかど)図書館として近所の方々にその蔵書を見せてあげていただきたいと思います。図書館は、個人でいくらでも開設できます。空いている部屋が1つでもあればそこを図書館にし、無理のない範囲で週に1回でも2回でも近所の方々に子どもたちに開放して、所有している本を読ませていただければ、こんなありがたいことはありません。子どもたちだけでなく社会人の学力もつきますし、近所の方々にも喜ばれると思います。フィンランドにはそのような図書館がたくさんあったように記憶しています。

(7)一番よかったのは、タンペレという町にある「ムーミン図書館」でした。図書館の地下にムーミンの博物館があり、関連するいろいろなものが飾ってありました。このような形もすばらしいですね。

(8)本を読むために、まずは図書館を上手に活用しましょう。また、お金に余裕のある方は本屋さんに行って本を買きましょう。このようにして、読書をたくさんしてください。

(9)では、本はどのように読んだらよいのでしょうか。1～2回読んだだけでは中身がなかなか理解できませんし、身に付きません。ですから、できれば6回ぐらい読むのがよいと思います。

(10)何年か前に、私の尊敬する神長善次先生に「本は一体何回読んだわにいでしょうか」と本を読む回数をお聞きしました。神長先生は、オマーンやネパールの大使をなさった方です。その神長先生は、「本は6回ぐらい読むとよい」とおっしゃっていました。それ以来私も、本は1～2回ではなく、できれば6回ぐらい読もうと心がけています。なかなか大変かもしれませんが、これぞと思う本は5～6回ゆっくり読み、よく理解した上でそれを身に付けることが大事であると思います。

3. おわりに - 「書き抜き読書ノート」のすすめ

- (1)最後に、1 つ提案があります。「書き抜き読書ノート」を作ってください、本を読んで気に入った1つの文、まとまった文章、あるいは1ページ、さらに数ページを好きなだけ書き抜いておくことをお勧めします。そして、その「書き抜き読書ノート」に書き抜いたものを折に触れてときどき読んでみる。できれば声に出して何回も何回も、6回ぐらいは読んでみる。すると、それが自分の血となり肉となります。
- (2)自分の読んだ本の中で一番気に入ったところというのは、最も心に触れたところなので、それは皆様の自然のうちに少しずつ血となり肉となる、つまり人格の形成にも役に立つと思います。
- (3)私も昨年の12月末頃から、昔読んだ本あるいは最近読んだ本の中から気に入ったものを選び、「書き抜き読書ノート」に毎日1つぐらいずつ書き抜いています。林明夫(「林」は木を2つ並べた林、「明夫」は明治時代の明に夫です)で検索すると、私のホームページが出てきます。その中の「書き抜き読書ノート」の欄を見ていただくと、私の書き抜いたものが3か月分ぐらい入っています。
- (4)また、開倫塾(「開」は開く、「倫」は倫理社会の倫、「塾」は学習塾の塾)のホームページの中にも私個人のコーナーがあり、そこを検索していただくと同じものを見ることができます。毎日1つぐらいずつ書き抜いていますので、ぜひご覧下さい。
- (5)皆様もぜひ「書き抜き読書ノート」を作って、長いものではなく短くてもよいですから、本を読んでいて1つでも2つでも自分の気に入った文や文章を書き抜いていただければ、これもまたすばらしい読書のしかたであると思います。

[コメント]

学力を身につけるには、「本人の自覚」と「教師の力量」が大切なこと論をまたないが、「学び方を学ぶ」能力が身につけていること、「読書による思慮深さ」を身につけていることも大切と考える。読書の秋。是非本格的な読書をお願いしたい。

読書による思慮深さを身につけるチャンス(機会)を身近な人々に提供するために、本をたくさんお持ちの読書家の皆様は、週に1日、いや年に何日かでもいいですから私立図書館(街角図書館)の開設を御提案したい。

- 2009年9月12日林明夫記 -